

科目名：母性看護学概論	配当年次 1 年	開講時期 1 年後期
単位・時間： 1 単位 ( 3 0 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 曲山 さち子	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>人としての性と生殖の意義を理解し、女性の一生を通して健康保持・増進と母性機能を円滑に遂行していくための母性看護の機能および役割を学びます。また、母性看護の対象の特性では、母性だけではなく父性、家族についても言及し、我が国の人口問題、母性を取り巻く社会問題家族の役割と機能などについて学んでいきます。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護の対象の特徴を理解する。</li> <li>2. 性と生殖の意義を理解する。</li> <li>3. 看護師が行うべき倫理的配慮について理解する。</li> <li>4. 母性保険の意義と動向を理解する。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護の基盤となる概念</li> <li>2. セクシュアリティ(人間の性)</li> <li>3. 4. リプロダクティブヘルス/ライツ</li> <li>5. ヘルスプロモーション</li> <li>6. 母性看護のあり方</li> <li>7. 母性看護における倫理</li> <li>8. 母性看護の対象を取り巻く環境</li> <li>9. 女性のライフサイクルにおける形態機能の変化</li> <li>10. 女性のライフサイクルと家族</li> <li>11. 母性の発達・熟成・継承</li> <li>12. 13. 14. リプロダクティブヘルスケア</li> <li>15. 試験・解説</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 母性看護学概論① 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p>	
履修上の注意事項		

科目名：母性看護学方法論 I	配当年次 2 年	開講時期 2 年前期・後期
単位・時間： 1 単位 ( 1 5 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： メティフォゴ 恵理		実務経験のある教員による授業 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">レ</span>
助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>人間のライフサイクルにおける各期の特徴、母性看護の意義・目的などの既習知識を通して、方法論 I ではライフステージ各期の健康問題と社会的な課題に向き合い、対象に応じた看護を考えていきます。</p> <p><b>【目 標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題を理解する。</li> <li>2. 男性のライフサイクル各期の特徴と健康問題を理解する。</li> </ol>	
授業の計画	<p><b>【授業計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2. ライフサイクルにおける女性・男性の健康と看護の必要性</li> <li>3. 4. 思春期・成熟期・更年期・老年期の健康と看護</li> <li>5. } ライフステージ各期の健康問題をとり上げ、課題に対する支援方法を共有する。</li> <li>6. } 月経異常/性感染症/妊娠/思春期やせ症と不健康やせ</li> <li>7. } 月経随伴症状の異常/月経困難症/生殖器悪性腫瘍</li> <li>          } 生殖器疾患/精神疾患/虚血性心疾患/ロコモティブシンドローム</li> <li>8. 試験</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 50% レポート 50%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 母性看護学概論① 医学書院 e テキスト</p> <p>系統看護学講座 母性看護学各論② 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p>	
履修上の注意事項		

科目名：母性看護学方法論Ⅱ	配当年次 2 年	開講時期 2 年後期
単位・時間： 1 単位 ( 3 0 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： メティフォゴ 恵里 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">レ</span></span> 助産師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。		
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 妊婦・産婦・褥婦の身体的・心理的变化とその家族を含めた対象の心理・社会的特性、および新生児の生理的特性について知識を習得します。また、方法論Ⅱではマタニティサイクルにおける妊娠・分娩期および産褥期にある女性と新生児、その家族の看護について学び、母子、夫、家族に対して必要な看護を学んでいきます。 <b>【目 標】</b> 1. 妊娠・分娩・産褥および新生児の生理を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥、新生児の正常・異常に対する看護を理解する。	
授業の計画	<b>【授業計画】</b> 1. 子どもを産み育てることと母親になるということ 2. 出生前からのリプロダクティブヘルスケア 3. 4. 妊娠期の身体的特性と妊娠期の心理・社会的特性 5. 妊娠期に予測される問題と看護 6. 7. 分娩期の身体的特性と妊娠期の心理・社会的特性 8. 分娩期に予測される問題と看護 9. 10. 新生児の生理と看護 11. 新生児に予測される問題と看護 12. 13.産褥期の身体的特性と妊娠期の心理・社会的特性 14. 産褥期に予測される問題と看護 15. 試験・解説	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<b>【教科書】</b> 系統看護学講座 母性看護学概論① 医学書院 e テキスト 系統看護学講座 母性看護学各論② 医学書院 e テキスト  <b>【参考文献】</b>	
履修上の注意事項		

科目名：母性看護学方法論Ⅲ	配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間： 1単位（ 15時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 井波 愛	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>母性看護の対象は、妊産褥婦とその子ども、将来子どもを産み育てるべき女性、及び過去においてその役目を果たした女性のみならず、生涯を通じての性と生殖に関する健康が大切になります。そのため方法論Ⅲでは、既習した対象の理解や看護に関する知識を統合し、判断力や問題解決能力を鍛え、妊娠・分娩・産褥期にある母性と新生児の看護について考えを深めていきます。</p> <p><b>【目 標】</b></p> <p>1. 事例の対象が理解でき、対象の状況を踏まえた観察と技術の提供の仕方がわかる。</p>	
授業の計画	<p>1. 2. 周産期における対象のアセスメントを通して、看護問題を明確にする。</p> <p>①妊娠(前・中・後)の観察と援助</p> <p>②分娩(第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)期の観察項目と援助</p> <p>③産褥期の観察項目と援助</p> <p>④新生児の観察項目と援助</p> <p>3. 4. アセスメントをもとに行動計画立案</p> <p>5. 6. 7. 行動計画をもとに看護実践・評価</p> <p>①レオポルドの目的・方法・注意事項の理解と実践</p> <p>②腹囲測定の目的・方法・注意事項の理解と実践</p> <p>③子宮底長測定の目的・方法・注意事項の理解と実践</p> <p>④NSTの目的・方法・注意事項・正常値の理解と実践</p> <p>⑤新生児のバイタルサイン測定の目的・方法・注意事項の理解と実践</p> <p>⑥沐浴の目的・方法・注意事項の理解</p> <p>8. 試験(レポート課題・筆記)と解説</p>	
成績評価の方法・基準	事例展開記録 50%          技術(レポート含む)50%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 母性看護学概論① 医学書院 e テキスト</p> <p>系統看護学講座 母性看護学各論② 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p>	
履修上の注意事項		